



が っ き お ま え 1学期の終わりを前にして

ま がつ がっこう なかにわ さ き ぎ はな がつ さくら がつ ふじ
あっという間に7月です。学校の中庭に咲く木々の花も、4月の桜から5月の藤、そし
て6月の紫陽花へとその色を移してきましたが、7月は花よりも、葉の緑が一番印象的な
き こうない ある しきょうしき がつ はな はみどり いちばんいんじょうてき
気がします。校内を歩いてみると、始業式から3か月がたって、各学級の様子もずいぶん落
つ かん な どうじ しんがくねん はじ とき しょしん
ち着いてきたように感じます。しかし、慣れてきたと同時に、新学年が始まった時の初心や
き うす すこ き ねんせい じかん
やる気が薄れてきてはしないかが、少し気になるところです。

がっこう がっき ふん たんいじかん ねんせい じかん
さて、学校では、この1学期だけで45分を1単位時間として、1年生でも300時間
いじょう がくしゅう がっき お まえ こ がくしゅうじかん たいせつ
以上の学習をしました。1学期の終わりを前にして、子どもたちには、その学習時間を大切
にできたかを振り返ってほしいと思います。すべての時間を集中して過ごすことは難し
いと思いますが、同じ時間教室にいても、学習をやらされている人と、自ら学ぼうとして
いる人では、その集中力は違います。学習の理解とやる気は車の両輪です。どちらが先
き ひと みずか まな さき
というものではありません。学習がわかれればやる気になるでしょうし、やる気があればこ
そ学習がわかるのです。そして、子どもたちには、「何を学んだか」をふり返るだけでなく、
なん まな いつしょ かんが おも かえ
「何のために学ぶのか」も一緒に考えてほしいと思っています。

あたら がつきゅう こ あたら とも で あ なか ひと こと な ま か
また、新しい学級となり、子どもたちが、新しい友だちと出会う中で、その人の事を仲間
みと こと かえ おも
として認める事ができたかもふり返ってほしいと思います。この1
がっこう ざんねん こうない たしや こころ きず で きごと
学期、残念ながら、校内で他者の心を傷つけるような出来事がいく
つかありました。そのほとんどは、丁寧に指導しながら解決に導い
ていねい しどう かいけつ みちび
ていますが、こうした事をただ残念な出来事だけで終わらせないよう
こと ざんねん で きごと お
に、そこから子どもたちに深く考えさせたいと思っています。それ
どうじ こと われわれきょうしょくいん まな ひ つづ こ
と同時に、その事から我々教職員も学び、引き続き子どもたちとし
っかり向きあっていきたいと考えています。



かてい がつきかん まいにち せいかつ じゅうじつ
ところで、ご家庭では、この1学期間、毎日の生活を充実したものにできたでしょうか。

い こ せいかつ きばん がっこう かてい すいみんじかん じゅうぶん
言うまでもなく、子どもたちの生活の基盤は学校ではなく家庭にあります。睡眠時間が十分

ねぶそく よくじつ がっこうせいかつ かてい す こ
でないと寝不足で翌日の学校生活がしんどくなるように、家庭での過ごし方が子どもの

まいにち あた えいきょう はか し いしょくた れいせつ し い
毎日に与える影響は計り知れないものがあります。また、「衣食足りて礼節を知る」と言わ

おだ せいかつ こ すこ せいちょう かてい こ
れるように、ゆとりある穏やかな生活が子どもの健やかな成長につながります。家庭は子ど

いちばんい ごこち よ ばしょ おも
もたちにとって、一番居心地の良い場所でなければならぬと思います。

い いごこち よ もんだい なん おや
しかし、そうだからと言って居心地が良すぎるのも問題です。何でも親がやってしまっ

て、子どもから自立の機会を奪ってしまうのはどうでしょう。逆に、何もしないで子ども

す かって かてい こ ねんさき ねんさき かんが いまひつよう
が好き勝手にしている家庭はどうでしょう。わが子の10年先、20年先を考えて、今必要

こと たいせつ おも
なことをきちんとあげる事が大切だと思います。

しゅうかん なつやす はい がつき なつやす
あと2週間ほどすれば、夏休みに入ります。1学期のまとめをしっかりして、夏休みに

まな こと み つ こと ばしょ い まわ まわ せいちょう
は、学んだ事や身に付けた事をいろいろな場所で生かして、ひとりもふた回りも成長し

ねが こんがつき りかい きょうりょく なつやす
てほしいと願っています。今学期もご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

こんきよ じしん 根拠のある自信

せんじつ がっこうたいいく けんきゅうかい どう
先日、学校体育の研究会で、バルセロナオリンピックのシンクロナイズドスイミング銅メ

だリストで、スポーツコメントーターの奥野史子さんの講演を聴く機会がありました。

さまざま はなし なか いちばんいんしょう のこ おくの ふみこ こうえん き きかい しゅつじょう とき
様々なお話の中で、一番印象に残ったのは、オリンピックに出場した時のエピソード

しゃいしゃ ぶたい た とき かんそう もと おくの まったく
です。司会者が、オリンピックの舞台に立った時の感想を求めたところ、奥野さんは、全

きんちょう こた なぜ まいにち じかんいじょう
く緊張しなかったです。」と答えられました。何故なら、それまでに毎日10時間以上のす

れんしゅう おくの ほんとう し こと おも
さまじい練習（奥野さんいわく、本当に死ぬほどというのをこういう事なのかと思った

た とき こんきよ じしん
そうです）をしてきたので、そこに立つ時、「根拠のある自信」があったというのです。

ことば い おくの かんしん
そんな言葉を言える奥野さんのすごさに感心しました。

じしん ひと い じぶん
自信というものは、人から言われてもつものではなく、自分を

りかい とき うちがわ あ
きちんと理解した時にはじめて内側からわき上がるもののな

はなし き かんが こ
ですね。お話を聞いて、そうした考えをもてる子どもたちを

そだ おも
育てていきたいと思いました。

